

令和7年度重点目標の成果と課題

- ・今年度も、全体的に概ね児童、保護者ともに概ね肯定的な評価を得られている。

成果

- ・保護者・児童共に運動会や展覧会等、学校行事の評価項目の評価が非常に高かった。
- ・「達成感がある」と答えた児童が約87%前後で「楽しい」と答えた児童も合計93.2%と非常に高い満足度であることから、学校行事の意義は大きく、行事を通して児童が成長を実感している様子が見られた。
- ・学習面では、「話し合いや発表の機会がある」の項目で児童の肯定的評価が93.7%と非常に多く、自分の考えを伝え、表現することを前向きに捉えている様子が分かる。
- ・「授業では映像やタブレットを活用している」との児童の肯定的回答が合計84.5%と高い評価で、保護者の評価も向上しており、授業でのデジタル活用の工夫が伝わっている。
- ・児童の「先生に相談できる」の項目も高い評価を得ており、少しずつ日頃の指導の成果が出ているようである。
- ・「健康に気を付けて過ごしている」という項目も、肯定的回答は約87%と着実に向上しており、伝統である健康教育の成果が出ている。

課題

- ・「学びが楽しい」と感じている児童の肯定的評価が71.4%と一定数いたが、前年比で約7ポイント減少しているため、児童の興味を高め、楽しく学べる授業を工夫していく。
- ・「キャリア教育」の項目の肯定的評価があまり高くはない。キャリア教育はその名称から職業教育と思われることが多いので、保護者にとっても評価が難しいところがある。児童が、自分の興味・関心のある仕事について調べたり、地域の方に仕事についての話を聞いたりする活動を通して、活動の内容や児童の様子が分かるように発信していく。
- ・烏山学舎についての肯定的評価が低いので、学舎として行っている教育活動のねらいや内容等を保護者や地域に積極的に発信していく必要がある。

対応策

- ・キャリア教育について、児童が自分の興味・関心のある仕事について調べたり、地域の方に仕事についての話を聞いたりする活動を通して、活動の内容や児童の様子が分かるように発信していく。
- ・烏山学舎をうまく活用した子ども同士の縦や横のつながりを大切にしつつ、一定の評価を得られるよう、学舎全体で活動の見直しをしていく必要がある。
- ・児童の自己肯定感を高めるために、児童の良いところを的確に褒めて伸ばすことを大切に、自分自身の良さに気付き、自信をもって活動できる取組内容や教育環境の工夫をしていく。